

コンクール概要

日程・会場

- 予選受付締切 2019年12月15日(日) 締切当日消印有効
- 本選出場者発表 2020年1月20日(月)予定
- 予選参加者全員に文書にて通知、ベヒュタイン・ジャパン ホームページにて結果発表掲載
- 本選 2020年4月17日(金)、18日(土) B部門(一般部門)
4月19日(日) A部門(ピアノ演奏家部門)
- 本選会場:汐留ベヒュタイン・サロン
A・B部門共に本選終了後、会場にて入賞者を発表

表彰・賞

- ノアン賞:「ノアン フェスティバル ショパン イン フランス2020の参加権利」
～ノアン フェスティバルの公開マスタークラス4日間の受講と、ノアン フェスティバルの修了コンサートで演奏することができます。～
日程 マスタークラス期間:2020年7月15日～7月21日
修了コンサート :7月22日
- ショパン・ナイト賞:「ショパン・ナイトの参加権利」
～ショパンの命日である10月16日にお城で演奏します。～
日程 2020年10月16日
- ノアンパスポート賞:ノアン フェスティバル ショパン イン フランス2020のコンサートパスポート
日程 2020年7月15日～7月22日
- ベヒュタイン賞:アンリ教授のレッスン受講の権利(1回無料)
※各カテゴリーの中で1位から3位を表彰し、表彰状およびトロフィーを授与いたします。
※部門により対象の賞が異なります。詳細は要項をご参照ください。

部門及び参加資格

1. A部門(ピアノ演奏家部門)
2. B部門(一般部門)

審査方法

1. 予選 DVD録画による審査 審査員:イヴ・アンリ
2. 本選 公開コンサート形式
会場: 汐留ベヒュタイン・サロン
(東京都港区東新橋2-18-2 グラディート汐留1F)

本選審査員(予定)

イヴ・アンリ (ピアニスト、作曲家、パリ国立音楽院教授、2015年
ショパン国際ピアノコンクール事前審査員、2016年R.シューマン国
際ピアノコンクール審査員) 他

参加費(全て税込)

予選: A部門 10,000円 B部門 8,000円
本選: A・B両部門とも20,000円
※会場までの旅費及び宿泊費の等は参加者にご負担いただきます。



要項のご請求・申込書送付先・お問合せ先

株式会社ベヒュタイン・ジャパン本社ショールーム (水曜定休)
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山9-2-1
TEL:03-3305-1211
E-mail: competition@euro-piano.co.jp
担当/佐々木・白川

主催 株式会社ベヒュタイン・ジャパン
協賛 Nohant Festival Chopin in France
後援 C. Bechstein Pianofortefabrik AG(ドイツ・ベヒュタイン本社)
公益財団法人 日本ピアノ教育連盟
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

お申し込みの流れ

- ①当コンクールの参加申込書と要項を店頭もしくはベヒュタイン・ジャパン ホームページよりご入手ください。
- ②要項を必ず最後までお読みの上、申込書に必要事項を全て記入し、顔写真(カラー 4cm×3cm)と録画DVD添付の上、株式会社ベヒュタイン・ジャパン本社ショールームまでご郵送ください。
応募方法は「郵送」のみとします。締切当日消印は有効です。
- ③参加費を下記へお振込みをお願いします。支払期限は2019年12月15日(日)です。
支払期限が過ぎた場合は参加資格が取り消しとなりますのでご注意ください。
①～③が全て必要です。

お振込先

銀行名 三菱 UFJ 銀行 烏山支店
店番 358
口座番号 普通 5341522
口座名 力) ベヒュタイン・ジャパン

3rd Nohant Festival Chopin in Japan Piano Competition

第3回

ノアンフェスティバル ショパン イン ジャパン ピアノコンクール



第3回「ノアンフェスティバル ショパン イン ジャパン ピアノコンクール」は
ベヒュタイン・ジャパン招聘ピアニストであるイヴ・アンリ教授が主宰する
フランスのノアン フェスティバル ショパン イン フランスと関連しています。
過去から現代まで、チッコリーニやルビンシュタインといった世界的な芸術家と今を代表する新進演奏家が
キラ星のように並ぶ夢のようなこのフェスティバルは、2020年に54周年を迎えます。
当コンクールで本選出場者の中から選ばれた方は、
フランスのノアンフェスティバル内で、マスタークラス受講や演奏をすることができます。
この出場者を募集します。

ご挨拶

イヴ・アンリ (ピアニスト/作曲家/ノアン フェスティバル イン フランス 会長)



フランスには、「二度あることは三度ある」という有名な諺があります。まさにそのとおり! 第3回目の「ノアン フェスティバル ショパン イン ジャパン ピアノ コンペティション」が 2020年に東京で開催されることになったのです。私はこの度もまたこのコンクールで、私たち、審査員と聴衆が、数々のショパンへの情熱あふれる演奏を聴けることをとても楽しみにしています。前2回(2016年と2018年)のコンクールでは、6人のピアニストが、2017年・2018年・2019年度「ノアン フェスティバル ショパン招請ピアニスト」の栄誉を受賞されました。ショパンが1839年から1846年の7回の夏を過ごし、多くの傑作を書いたフランス中央部の小さな村ノアンへ、初めて訪れる彼らを迎えるのは楽しいことでした。2020年のコンクールにも、沢山のピアニストが応募されることを期待し、主催のベヒュタイン・ジャパン社に心から感謝いたします。すべての応募者が幸運に恵まれますよう、そして2020年ノアンで彼らに会う約束がかなうことを祈っています。

(大倉景子訳)

Yves Henry Président du Nohant Festival Chopin

En France, nous avons une phrase célèbre qui est : « jamais deux sans trois ». Et bien, voici venir en 2020 la 3^e édition du Nohant Festival Chopin in Japan Piano Competition. Je me réjouis que ce concours puisse avoir à nouveau lieu à Tokyo, et nous permette (jury et public) d'entendre les concurrents exprimer leur passion pour Chopin. Les deux précédentes éditions -en 2016 et en 2018- ont permis de récompenser 6 pianistes en les invitant à participer au Nohant Festival Chopin en France en 2017, 2018 et 2019. C'était une joie de leur faire découvrir Nohant, ce petit village du centre de la France où Chopin a passé sept étés, de 1839 à 1846, et où il a composé tant de chefs-d'œuvre. J'espère que les candidats seront nombreux en 2020 et remercie Bechstein pour l'organisation de ce concours. Je souhaite bonne chance à tous les candidats et leur donne rendez-vous en 2020.

コンクール受賞者はこのような体験をされました。

2018年フランスのノアン フェスティバル、ショパン・ナイトでの様子

※ノアン賞受賞の津金澤広大さんは2019年夏、ショパン・ナイト賞後藤アリサ優子さんは2019年秋に渡仏予定。

山縣 美季さん ノアン賞受賞 ノアンフェスティバルショパンインフランス2018での公開マスタークラス受講と修了演奏会出演

ノアンフェスティバルを通して経験したことは全て、決して忘れる事のない素敵なものでした。

アンリ先生の公開レッスンはとても刺激的で、感動と驚きの連続でした。先生の言葉1つ1つが新鮮で、あっという間に演奏や、音に対する感じ方まで変わりました。

ジョルジュ・サンドの館でのコンサートは、ショパンが色々な思いで過ごし、多くの曲を書いた空間で演奏でき、ショパンを1人の人間として、少し身近に感じることのできる貴重な経験でした。

毎日、羊小屋のホールで著名なピアニストの演奏を聴いたり、受講生の友人の会話をしたりする中で、言葉も音楽も同じで、伝えようとする意思が大切であるということを学びました。



羊小屋のホール修了演奏会後、ベリー地方の音楽団の閉会演奏の様子



修了演奏会後1週間共に過ごした受講生と
アンリ教授とショパン像と



モーリスサンド劇場での
公開レッスンの様子

森山 光子さん ショパン・ナイト賞受賞 ショパンの命日にノアン・アルス城にて演奏

コンサート会場のアルス城のサロンには、2台のプレイヤーが用意されていた。1台は1846年製で、鍵盤数は88ないが、タッチもペダルもとても柔らかで、肉声で話すような音色だ。もう1台は1920年製。こちらは現代の楽器により近く、低、中、高のそれぞれの音域が、はっきりとした個性を持ちながら、広がりのある響きがする。若い頃、海外で勉強したこともあるが、古楽器をコンサートで弾くのは、初めてだ。



稻田 つづるさん ショパン・ナイト賞受賞 ショパンの命日にノアン・アルス城にて演奏

私がノアンのお城でのコンサートに招いて頂けるなんて思ってもみませんでした。ジョルジ・サンドの館を訪れた時は、ショパンが本当に生きていたんだ、ここに立ち、息をして、私の大好きな名曲が次々と生まれたのだと思い何だかその時代にタイムスリップしたような感覚になりました。

アルス城は中も外も歴史を感じました。石の古い匂いがして、その中で古い

プレイヤーを弾くと、弦の弾かれる音が一粒一粒美しく響きました。

コンサートは、ライトアップされた中で6曲弾かせて頂きました。お客様は熱心に聴いて下さり、私も喜んでほしいという気持ちで演奏しました。沢山の笑顔と拍手を頂き嬉しかったです。

ノアンでの経験は私にとって夢への第一歩です。またいつかフランスで演奏できるよう勉強していきたいと思います。

アンリ先生、ベヒシュタイン・ジャパンの皆様、本当にありがとうございました。

開催の趣旨



戸塚 亮一

(株)ベヒシュタイン・ジャパン
代表取締役会長

たくさんのピアノコンクールが開催され、そこに参加することで益々ピアノ演奏に励むという社会現象は歓迎されるべきことです。その結果に対する表彰として、賞金と名誉が与えられます。商業主義のコンクールが多い中、賞金を増額して応募者を増やし、優秀なピアニストを輩出しようということも見られます。弊社のような小企業が、今までの約30年に及ぶ活動の延長線上にコンクールを主催すると、意義がどこにあるのかを考え、フランスのイヴ・アンリ氏の協力のもと、2年に1度ということで2020年の今回第3回の開催の運びとなりました。応募者にとって何が有益でかつ魅力的であるか、特徴を以下にまとめてみました。その他のご要望があれば、お申し出ください。

1、当コンクールの表彰は、一過性の賞金ではなく、作曲家“ショパン”という人物と作品を通じて、日本人ピアニストが海外ピアニストや海外からの受講生と、フランスという地で交流を図る機会を提供することをく賞>としております。これは参加者一人ひとりへ“貴重な体験をする機会を提供しよう”という意味が込められております。

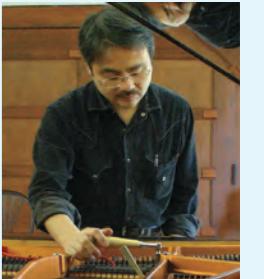
2、当コンクールで入賞できなかった方々の為に、希望者を募り「ノアン フェスティバル ショパン イン フランス」の見学ツアーの計画を予定します。(別途有料)
またコンクール参加者一人ひとりへ審査員から演奏に対する簡単なコメントをお渡しする予定です。私達はこのような活動を通じて、コンクールの結果に一喜一憂するだけではなく、<本当の>ショパンファン、ピアノファンを育てようと考えております。

3、この機会に、日本人が特に忘れがちな、ピアノそのものに関心を持っていただきたいと存じます。ベヒシュタインには、ショパン→プレイヤー→ベヒシュタイン、とピアノの持つ個性が引き継がれております。他のピアノにはそれがほとんどありません。その意味も是非、一般教養のひとつとして、習得・実感していただけることを願っております。このコンクールに応募するか、しないかにかかわらず、弊社・ドイツピアノ製造マイスター・加藤正人の文章「このコンクールでベヒシュタインを使用する意義」をご精読いただければ幸いです。このような事実を“ピアノのブランド”しか考えていないピアニストが、“ブランド=盲目”になってしまっている現実に警鐘を鳴らしたいと思います。このようにピアノそのものにまつわる歴史を理解してから弾くショパンは、知的好奇心が満たされ、演奏そのものが益々楽しくなることでしょう。

当コンクールでベヒシュタインを使用する意義

加藤 正人

(株)ベヒシュタイン・ジャパン 取締役社長
ドイツピアノマイスター



ショパン存命中に製造されたプレイヤーを初めて調律したとき、響きが鮮明ゆえ、同時に鳴るそれぞれの音の認識、打弦タイミングのズレが明確に聞こえ、指先に感じるハンマーの打弦と、響きの鮮明さの両方が、まるで指で弦を直接かき鳴らしているような錯覚さえ覚えさせているようで、“響きの鮮明さ”に驚かされた。

この時「ショパンは体調の良い時にはプレイヤーを好み、体調がすぐれない時はエラールを弾いた。」という言葉の意味が理解できた。

プレイヤーのヒストリカル楽器でピアノの名手による演奏を聴くと、音楽のダイアログ(対話)が見事に表現されているのが聴き取れる。

ショパン自身がプレイヤーでの演奏を好んだ理由はここにあるのだろう。伴奏部分の音の重なりが背景の色彩を作り、その響きの色彩の中に浮かぶ旋律によるダイアログを表現しやすいピアノが間違なくプレイヤーだった。

プレイヤーは鮮明な響きを実現するため、響板裏面にブリッジ(表面)に並行して貼り付けられるメインリブ構造を採用している。当時、この構造も画一的なものではなく、様々な試作がされている。この“透明感のある響き”というコンセプトを現代に踏襲するピアノは、ベヒシュタインである。ベヒシュタインの創業者カール・ベヒシュタインは、徒弟時代にプレイヤーのドレスデン工場で学び、さらにパリでプレイヤーの流れを汲む“クリーゲルシュタイン”的もとで修業を重ねた。

19世紀半ばのベヒシュタイン設立当時に製造されたピアノを見ると、プレイヤーの構造に非常に似ていることが判る。そして、現代のベヒシュタインの響板も、音圧ではなく、響きの鮮明さを優先させる構造となっている。

ノアン フェスティバル ショパン イン ジャパンのコンクール本選でベヒシュタインを使用する理由は、“ショパン自身が意図したであろう、色彩のコントラストや旋律のダイアログの表現に審査員は耳を傾けたい。”という意味がある。